

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成30年3月29日

計画の名称	高槻駅周辺地区（2期）都市再生整備計画事業																																							
計画の期間	平成24年度 ～ 平成28年度（5年間）	交付対象	大阪府高槻市																																					
計画の目標	人口減少にともなう地域活力の衰退や、高齢化が進む社会情勢に対応していくため、J R高槻駅の周辺道路整備、駅前広場整備、J R高槻駅南人工デッキ美装化等とともにJ R高槻駅のホーム整備を行うなど、J R高槻駅を中心とした中心市街地において一体的なまちづくりに取り組み、高槻の玄関口としてふさわしい、安全・安心・快適にぎわいある中枢都市拠点の創出を図る。																																							
計画の成果目標（定量的指標）	①まちの移動環境、にぎわいの向上指標として、JR高槻駅周辺の通行者数が478,178人／日から497,721人／日に増加することを目標とする ②ホーム整備によるホームの安全性・快適性向上の指標として、朝ラッシュ時における乗降客のホーム歩行環境のサービス水準がD（速度が制限される混雑空間）からB（対向流が少し気になる状態）に改善することを目標とする。 ③次代を担う世代が多く居住し、人口減少及び少子化の傾向が改善されバランスの取れた人口構造を目指す。																																							
定量的指標の定義及び算定式	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">定量的指標の現況値及び目標値</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>当初現況値 (当初)</th> <th colspan="3"></th> <th>最終目標値 (最終)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① J R高槻駅周辺における歩行者・自転車通行量</td> <td>(H22) 478,178人/日</td> <td colspan="3"></td> <td>(H28) 497,721人/日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② J R高槻駅における朝ラッシュ時のホーム上乗降客に対する歩行環境のサービス水準 (歩行密度：1列車辺りの乗降客数/有効ホーム面積)</td> <td>(H23) サービス水準D</td> <td colspan="3"></td> <td>(H28) サービス水準B</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ 次代を担う世代が住みたいと思う環境が整備されていると感じる市民の割合</td> <td>(H22) 73.5%</td> <td colspan="3"></td> <td>(H28) 74.5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>								定量的指標の現況値及び目標値					備考	当初現況値 (当初)				最終目標値 (最終)	① J R高槻駅周辺における歩行者・自転車通行量	(H22) 478,178人/日				(H28) 497,721人/日		② J R高槻駅における朝ラッシュ時のホーム上乗降客に対する歩行環境のサービス水準 (歩行密度：1列車辺りの乗降客数/有効ホーム面積)	(H23) サービス水準D				(H28) サービス水準B		③ 次代を担う世代が住みたいと思う環境が整備されていると感じる市民の割合	(H22) 73.5%				(H28) 74.5%	
	定量的指標の現況値及び目標値					備考																																		
	当初現況値 (当初)				最終目標値 (最終)																																			
① J R高槻駅周辺における歩行者・自転車通行量	(H22) 478,178人/日				(H28) 497,721人/日																																			
② J R高槻駅における朝ラッシュ時のホーム上乗降客に対する歩行環境のサービス水準 (歩行密度：1列車辺りの乗降客数/有効ホーム面積)	(H23) サービス水準D				(H28) サービス水準B																																			
③ 次代を担う世代が住みたいと思う環境が整備されていると感じる市民の割合	(H22) 73.5%				(H28) 74.5%																																			
全体事業費	合計 (A+B+C)	5,877百万円	5,826百万円	B	0百万円	C	51百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.9%																															

事後評価（中間評価）

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
「高槻市社会資本総合整備計画評価委員会」において評価を実施	平成30年2月
	公表の方法
	市ホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 道路事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
1-A-1	都市交通	一般	高槻市	間接	J R西日本	都市・地域交通戦略推進事業（J R高槻駅地区）	計画区域：8.0ha 上りホーム増設：L=260.0m 下りホーム増設：L=260.0m	高槻市						3,894	
1-A-2	都市交通	一般	高槻市	直接	高槻市	都市・地域交通戦略推進事業（都市・地域総合交通戦略策定）	都市・地域総合交通戦略の策定	高槻市						33	
1-A-3	道路	一般	高槻市	直接	高槻市	高槻駅西口周辺整備	L=160m	高槻市						125	
1-A-4	都市再生	一般	高槻市	直接	高槻市	高槻駅周辺地区（2期）都市再生整備計画（都市再構築戦略事業）	計画区域：683ha	高槻市						1,774	
合計													5,826		
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
														0	
合計													0		
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
1-C-1	社会実験	一般	高槻市	直接	高槻市	交通社会実験	J R高槻駅西口周辺の交通社会実験	高槻市						10	
1-C-2	事業活用調査	一般	高槻市	直接	高槻市	おでかけマップ作成	中心市街地の最新の情報提供	高槻市						5	
1-C-3	まちづくり活動推進事業	一般	高槻市	直接	高槻市	定住促進プロモーション事業	市民参加型のCMづくり等	高槻市						13	
1-C-4	地域創造支援事業	一般	高槻市	直接	高槻市	バス発車時刻案内モニター設置事業	J R高槻駅・阪急高槻市駅にバス発車時刻案内モニター設置	高槻市						17	
1-C-5	まちづくり活動推進事業	一般	高槻市	直接	高槻市	子育て世代応援プログラム	子育て施策の情報発信	高槻市						6	
合計													51		

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
1-C-1	高槻駅西口周辺整備(1-A-3)にかかり、交通施策の実現性について検討を行なうことで、スムーズな事業の推進が期待できる。	
1-C-2	都市再生整備2期計画において、JR高槻駅北東地区の再整備をはじめとする中心市街地内の最新の情報を市民へ提供する。	
1-C-3	都市再生整備2期計画において、高槻市の魅力を発信することで市内に人を呼び込むとともに、定住を促し、高槻市の発展に繋げる。	
1-C-4	都市再生整備2期計画において、JR高槻駅・阪急高槻市駅にバスの発車時刻を案内するモニターを設置し、バス利用者の利便性を向上させ、もって公共交通利用者を増加させる。	
1-C-5	都市再生整備2期計画において、子育て施策を世間に広く情報発信することで、子育て世代の市内への定住を促進する。	

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		都市再生整備計画事業や高槻駅西口周辺整備により、JR高槻駅周辺における駅前広場の整備、人工デッキ美装化等による高質空間の形成、無電柱化や道路整備による安全な歩行空間の確保等を実施し、通行者数や住みたいと思う環境が整備されていると感じる割合に一定の効果が発現した。また、都市・地域交通戦略推進事業により、JR高槻駅ホーム拡充を実施したことで、ホームにおける歩行環境のサービス水準が向上した。 このようなことから、本計画に基づき、JR高槻駅を中心とした中心市街地において一体的なまちづくりに取り組んだことで、高槻の玄関口としてふさわしい、安全・安心・快適でにぎわいある中枢都市拠点の創出に寄与した。			
II 定量的指標の達成状況	指標①（JR高槻駅周辺における歩行者・自転車通行量）	最終目標値	497,721人/日	目標値と実績値 に差が出た要因	全国都市交通特性調査によると、平成17年から平成22年にかけて増加傾向であった外出率が、平成22年から平成27年にかけて、高齢化等に伴い全国的に大きく減少している。また、本市においても、中心市街地の通行者数は平成22年まで増加傾向であったが、平成25年以降は減少傾向となっている。目標設定時において、このような減少傾向が反映できず、目標値の設定が過大となったことが、達成できなかった要因であると考えられる。 一方、全国的に通行者数が減少傾向である状況において、事業箇所周辺の調査地点については通行者数の増加が見られ、にぎわいある駅周辺の環境づくりに向けて、一定の整備効果が見られたと考える。
		最終実績値	454,627人/日		
	指標②（JR高槻駅における朝ラッシュ時のホーム上乗降客に対する歩行環境のサービス水準）	最終目標値	サービス水準B	目標値と実績値 に差が出た要因	
		最終実績値	サービス水準B		
	指標③（次代を担う世代が住みたいと思う環境が整備されていると感じる市民の割合）	最終目標値	74.5%	目標値と実績値 に差が出た要因	
		最終実績値	81.8%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)		<ul style="list-style-type: none"> 市民交流施設の整備やバリアフリー化を行うことで施設の利便性が向上し、市民交流施設の利用件数の増加に寄与した。(H22 36,111件 → H27 37,263件) また、市民交流施設のうち新たに整備された桃園コミュニティセンターでは、食育講座や子育てサロンといった交流活動が行われ、高槻現代劇場(文化ホール)では、ジャズトリートの会場となる等、市民協働に関わる事業が実施され、市民の交流や活動をより活性化させた。 JR高槻駅周辺の整備や道路事業を重層的に行ったことで駅周辺の魅力や安全性、快適性の向上につながり、道路の満足度が増加した。(H23 48.9% → H28 58.4%) 特に、子育てに関わる人が多い30~40代、70代以上の高齢者世代の満足度の増加率が高く、誰もが安全・安心に移動できる快適な道路空間づくりに向けて、整備効果が見られた。 JR高槻駅ホーム拡充により、特急はるか、特急サンダーバードの一部停車が実現し、市の玄関口として、高槻駅の機能強化が図られ、にぎわいのある中枢都市拠点の創出に寄与した。 			
3. 特記事項(今後の方針等)					
<ul style="list-style-type: none"> 集約型都市づくりの推進と都市拠点間の対流のため、高槻駅周辺における一層のにぎわい創出、機能強化に向けた取り組みを継続する。 2期計画において、JR高槻駅周辺は一定整備が進み、今後は阪急高槻市駅周辺のにぎわい創出に向けた取り組みを実施する等、エリア全体として機能強化を図るべく3期計画において取組を継続する。 高槻子ども未来館や安満遺跡公園の整備、市民会館の建替え等の都市機能の集約化を見据えて、拠点間をつなぎ回遊性を高めるため、誰もが安全、快適に移動できる道路空間づくりを継続する。 高槻子ども未来館を核とした子育て世代が暮らしやすいまちづくりを進めていく。 現在のまちづくり体制を持続すべく、引き続き市民参加プロセスを継続しながら、より市民ニーズにあった都市拠点としての機能強化を図る。 					